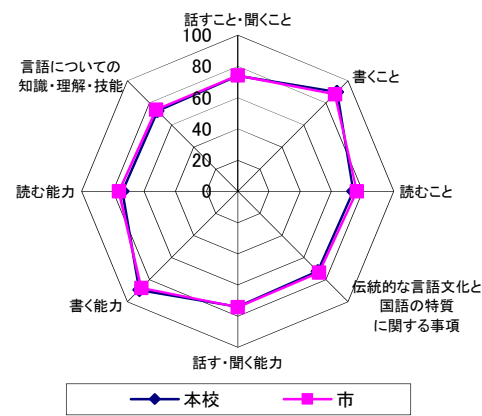


H29年度宇都宮市立若松原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	74.0	74.2	68.8
	書くこと	89.9	88.0	73.8
	読むこと	74.0	76.2	71.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.4	73.6	68.8
観点別	話す・聞く能力	74.0	74.2	68.8
	書く能力	89.2	87.5	73.8
	読む能力	74.0	76.2	71.7
	言語についての知識・理解・技能	72.9	74.0	68.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

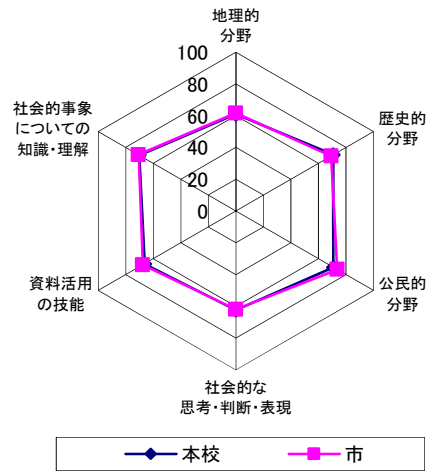
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○市の平均正答率には0.2ポイント及ばないものの、参考値を5.3ポイント上回り、「話す・聞く」能力は十分満足できる結果である。 ○「話の内容を正確に聞き取る」問題では、市の平均を4.0ポイント上回り十分満足できる結果である。 ●「司会者の工夫を聞き取る」問題では、参考値を0.1ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・「話すこと」では、全校をあげて1分間スピーチに取り組んできた。2年目に入り、成果が表れている。今後も継続し、話す力を伸ばしていく。 ・「聞くこと」においては、単元末テストで聞き取りテストを実施し、聞く力の向上に努めてきたが、今後も継続して取り組んでいく。 ・グループでの話し合い活動を発展させ、クラスでの話し合いを積極的に実施する。
書くこと	○市の平均正答率を1.9ポイント上回り、参考値より16.1ポイント上回る。十分満足できる結果である。 ○「書くこと」におけるすべての問題で、市の平均を上回る。特に「指定された文字数で書く」問題で3.6ポイント、「立場の理由を書く」問題で2.2ポイント市の平均を上回り、高い正答率である。	・すべての教科、領域において「話す」「聞く」「書く」といった言語活動に取り組んできた成果が顕著に表れた結果となった。今回の結果を踏まえ、言語活動を取り入れた授業を充実させていく。 ・平成29年度は特に「理由をあげて説明すること」に重点的に取り組んできた。また、授業の振り返りの場面で書かせる活動を取り入れてきた。継続して、取り組んでいく。
読むこと	○市の平均正答率には2.3ポイント及ばなかったが、参考値を2.3ポイント上回り、「読む」能力は概ね満足できる結果である。 ○「文章の構成や展開を捉える」問題では、市の平均を0.1ポイント上回った。 ●「展開に即して要旨をとらえる」問題の正答率は、参考値を7.0ポイント下回った。	・毎日実施している朝の読書が定着し、「読むこと」の学力を下支えしている。今後は、必読書の説明文をブックトーク等で紹介し、小説以外の読書へと幅を広げていく。 ・学習の振り返りを通して、学習材の要点をまとめさせたり、学んだことを簡潔にまとめさせたりする活動を取り入れていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○市の平均正答率には1.2ポイント及ばないものの、参考値を3.6ポイント上回り、「読む」能力は概ね満足できる結果である。 ○「漢字の読み」は、参考値を4.8ポイント、「漢字の書き」では参考値を2.9ポイント上回る。 ●「敬語についての理解」の正答率は51.5%（参考値比+17.7ポイント）、「語句の意味を理解して、文脈の中で適切に使う」問題の正答率は63.9%（参考値比+2.5ポイント）であった。	・漢字の読み書きについては、毎時間の小テストで定着を図ってきた。他の教科にも依頼し、文章表現において漢字を使わせるよう働きかけ向上を図っている。 ・普段の生活において、言葉遣いの指導を進め、敬語の理解度を上げていく。 ・読むことの学習材を扱う際に、文脈の中での語句の意味を取り上げ、語彙指導を進める。

H29年度宇都宮市立若松原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	61.0	61.7	54.6
	歴史的分野	70.7	69.2	59.6
	公民的分野	70.8	73.6	67.8
観点別	社会的な思考・判断・表現	62.3	61.9	51.9
	資料活用 の技能	66.4	67.7	57.7
	社会的事象についての知識・理解	70.3	70.7	64.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

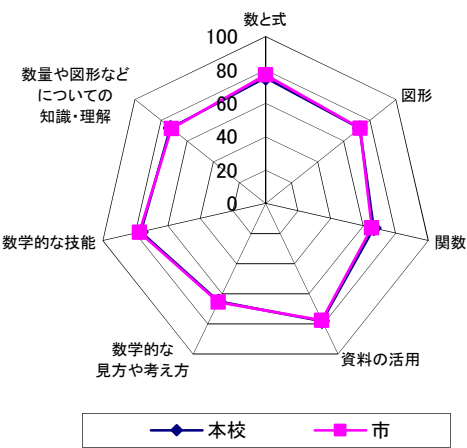
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○世界の諸地域の理解度が高く、特にアフリカ州の考察について、市の平均を大幅に上回っている。 ●資料を読み取り、思考・判断・表現する力が弱い。なかでも、地形図の読み取りや、複数の資料を参考に考察することを苦手とする生徒が多い。	・資料を読み取る活動を授業の中で意図的に設定していく。その際、地形図の読み取りについては視聴覚教材を活用しながら読み取るポイントを理解させていく。そのほか、資料を読み取る活動においては、資料に番号をつけ、どの資料からどのようなことが読み取れるのかを明確にして答えさせ、複数の資料から考察する力を育てていく。
歴史的分野	○平均正答率は他の領域の中でも高く、市の平均を上回っている。 ○中世の歴史の理解度が高く、大問5の問題すべての平均正答率が市の平均を上回っている。 ●資料を読み取り、思考・判断・表現する力が弱い。中でも、歴史的背景の説明を苦手とする生徒が多い。	・中世の歴史については、授業で学習した際に年代や出来事の小テストを数多く実施していたことが、市の平均を上回った要因であると考えられる。そのため、今後は中世の歴史に限らず、時代ごとに小テストを実施することを重点的に行い、学習内容を定着させていく。 ・資料を読み取る活動においては、資料に番号をつけ、どの資料からどのようなことが読み取れるのかを明確にして答えさせ、複数の資料から考察する力を育てていく。
公民的分野	・平均正答率は他の領域の中では最も高いが、市の平均は下回っている。 ○日本国憲法と基本的人権に関しての理解度は比較的高い。 ●資料を読み取る力が弱い。また、内閣や地方自治のしくみについての理解度が低く、平均正答率がいずれも市の平均を下回っている。	・内閣や地方自治のしくみについては、教師の説明を一方的に聞くだけでは十分な理解につながらないため、授業の中でそれらのしくみを説明する活動を意図的に実践していく。その際、生徒が説明するヒントとなるよう使用する語句を指定するなど工夫しながら授業を実践していく。

H29年度宇都宮市立若松原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	75.4	77.1	71.0
	図形	72.2	72.4	59.3
	関数	66.5	65.2	51.0
	資料の活用	78.1	77.6	67.1
観点別	数学的な見方や考え方	65.0	65.5	48.8
	数学的な技能	76.7	77.5	69.8
	数量や図形などについての知識・理解	72.7	72.1	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

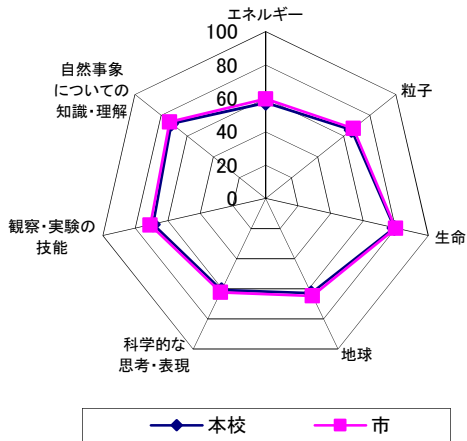
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○平均正答率は市の平均とほぼ同じレベルにあり、学習内容は概ね定着している。 ●理解度の遅い生徒には、机間指導による個別指導等に対応してきたが、理解の定着までには至っていない。	・基本的な計算の技能がなかなか定着しない生徒に対しての個別指導を充実させ、更に全体の底上げを図っていきたい。また、式を活用する学習では、学び合い活動の際に、式だけを発表させてその式ができた理由を他の生徒に発表させるなど、式を解釈し、式の構造を読み取る言語活動の場を増やしていく。
図形	○平均正答率は市の平均とほぼ同じレベルにあり、学習内容は概ね定着している。 ●点数以上に、図形分野を苦手に感じている生徒が多くみられる。	・最初から図を与えずに問題文のみを与え、自分でイメージして正確な図を描き、必要な情報を図に書き込み、問題を解決する等の地道な作業を繰り返し指導していく。
関数	○平均正答率は市の平均とほぼ同じレベルにあり、学習内容は概ね定着している。 ●特にグラフについては、表や式をもとに、座標に一つ一つ点を取りながら指導してきたが、グラフの読み取りに関する問題を理解していない生徒がいる。	・関数の指導においては、表、式、グラフの3つを有効に活用して問題解決に当たらせていく必要がある。特にグラフを頭の中でしっかりイメージできていないと問題の理解は難しいので、グラフをかかせる時間を十分に確保して指導に当たる。
資料の活用	○平均正答率は市の平均とほぼ同じレベルにあり、学習内容は概ね定着している。 ●資料のどの部分に着目して問題を解決していったらよいかという、問題解決の糸口が見つけられない生徒が多い。グループ活動等を通して、よりよい問題解決の方策を話し合う時間を多く確保してきたが、まだまだ理解が難しい。	・資料の活用では、資料の分布の様子や特徴をとらえる場面を設定し、資料の傾向を的確にとらえて判断できるようにさせたい。そのためにも、数学的表現を用いて説明する活動を設定し、根拠を明確にして結論を導かせることにより、理解を深めさせる。

H29年度宇都宮市立若松原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	57.4	59.7	57.9
	粒子	65.8	67.4	59.8
	生命	79.2	79.9	73.5
	地球	62.9	64.7	54.6
観点別	科学的な思考・表現	60.9	62.3	56.3
	観察・実験の技能	69.2	70.9	65.4
	自然事象についての知識・理解	72.2	73.5	66.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

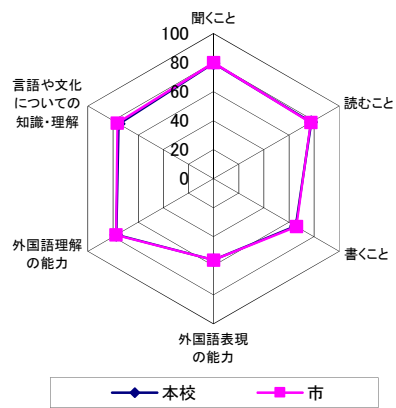
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○市平均は下回るものの、参考値の正答率より上回る設問もみられる。また、基本的な語句を答える設問では、参考値と比較すると高い正答率が見える。 ●エネルギーの中で、「慣性」「磁力線」などの項目で正答率が参考値よりも下回る。目に見えないものを捉える際につまずきを感じている生徒が多い。	・目に見えない概念を実験等を通して体験することで、その現象が起こる理由を理解できるようにする。 ・繰り返し学習できるように分野を関連付けながら授業で復習ができるように行う。
粒子	○宇都宮市の平均は下回るものの、参考値の正答率より上回る設問が多い。昨年よりも大幅に改善している傾向がある。 ●粒子の中で「中和」の項目で正答率が参考値よりも下回る。イオン式や化学式になると点数が下がる傾向が見られた。	・昨年度に比べ大きく改善した項目である。今後も引き続きイオンの特徴や性質を指導していく。また、イオンにある共通点を踏まえて、少しでも覚えやすい指導を心がける。また、小テストをこまめに実施して、定着するよう努める。
生命	○参考値を大きく上回った。昨年度と同様に生物分野においては、生徒の関心・意欲も非常に高く、自ら考えて学ぶことができています。 ●「植物の特徴を分類する」項目で、市平均を下回る。植物の特徴や違いを区別して覚えることができない生徒が若干見られる。	・生命分野にさらに興味を持つために、実物を見ることはもちろん、実際に見ることができないものは、画像や動画を効果的に使用し、今以上の興味・関心が湧くような授業にする。また、植物の特徴を分類する際にも利用していく。
地球	○参考値を大きく上回った。我々の身近に存在する現象には非常に興味深く学習に取り組んでいる。 ●「低気圧付近の風の吹き方」の項目で正答率が参考値よりも下回る。風の吹き込み方と上昇気流との関連がうまくつながらない生徒が多い。	・地球分野にさらに興味を持たせるために、必要な知識を授業を通して伝えていく。地球環境等にも関心を持たせるような授業を展開していくために教材教具の研究を引き続き行っていく。

H29年度宇都宮市立若松原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	79.5	79.9	75.7
	読むこと	77.7	77.3	72.8
	書くこと	65.4	66.0	69.3
観点別	外国語表現の能力	56.1	56.1	58.8
	外国語理解の能力	77.4	77.6	72.3
	言語や文化についての知識・理解	75.5	76.6	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○「聞くこと」の正答率は79.5%で、参考値との比較で+3.8ポイントであった。 ●内容を理解する問題の正答率は84.6%で市との比較では0.3ポイント低い。対話文の応答に関する問題の正答率は71.8%で、市との之比較で-0.6ポイントである。英語の質問に対する基本的なルールは理解しているが、まとまりのある文を聞いて内容を理解したり、適切に応答したりする問題の正答率が低く、定着していないと見られる。	○積極的に英語を聞く態度が身に付いてきている。聞く力を高めるために、ALTとの協働授業の活用だけでなく、日頃の授業から多くの英語を使いながら授業を進めてきた。また、基本的な語彙、基本文法、問いかけに対する応答の仕方などポイントを絞る工夫をしながら指導してきた。 ・まとまりのあるある英文を聞いて概要を聞き取ったり、相手の意向や必要な情報を聞き取ったりする力を高めていくことが大切である。日頃から授業の中で英語での言語活動や発問を行い、さらには場面設定を工夫し、大切な部分を聞き取り、適切に答える力を身に付けさせる。また、基本的なリスニング能力の定着とともに英語特有の表現や定型会話を十分に理解させ、それを活用する力を高める。
読むこと	○「読むこと」の正答率は65.4%で、参考値との比較で+4.9ポイントであった。 ○「語形・語法の知識・理解」に関する問題の正答率は83.2%(市との差+0.6ポイント)、長文の読み取りの正答率は78.3%(市との差+0.7ポイント)である。 ●長文問題の正答率はいずれも80%未満で低い傾向にある。	・日頃の授業で、英文の読み取り活動の際に読み取りのポイント、手がかりとなる語や表現を事前に与え、時には事前に内容をたずねる質問をするなど工夫しながら授業を行っており、読む力が身に付いている。 ・語彙が不十分で、分量のある英文に触れる機会が少ないためである。また、長い文章では途中で理解することを諦めてしまう生徒や、正確に読み取る力が十分に身に付いていない生徒も見られる。 ・長い文章においても生徒は、一文一文解釈することに集中しがちである。読みとりのポイントを十分指導し、英文を見たとき大まかな流れ、概要や要点を捉えさせるような読みとりを身に付けさせていく指導が必要である。また、分量のある英文に数多く触れさせる。
書くこと	○場面に応じて書く問題の正答率は32.7%と低かったが市との差では+2.9ポイントである。また、3文以上の英作文では、正答率7.05%(市との差+0.6ポイント)であった。 ●「書くこと」の正答率は77.7%で、参考値との比較で-3.9ポイントであった。 ●単語の並べ替えによる英作文の問題の正答率は66.5%(市との差-3.6ポイント)である。	・言語の使用場面や働きを意識させるための場面を設定し、ダイアログを作らせたり、まとまった英語で書かせる機会を数多く作ったため、少しずつ書くことへの抵抗が生徒になくなってきた。 ・基本的な単語や基本文など生徒の語彙力を高めさせるために単語テストを数多く実施してきた。また、繰り返し練習することの大切さを理解させてきた。単語学習の習慣は身に付いてきたが、書くために必要な単語や表現が生徒にまだ十分定着しておらず、今後さらに語彙力を増やす必要がある。 ・まず、基本となる語彙や基本文の定着を徹底することが必要である。そのためには、書く活動を授業だけにとどまらず、課題として家庭でも継続的に行うように指導していく。生徒が自分のことを英語で表現したくなるような身近な場面、条件に応じた作文やテーマに基づく作文の練習を増やす。

H29年度宇都宮市立若松原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・授業におけるまとめ、振り返りの徹底	・授業のはじめに、授業のねらいを明確に示し板書させる。授業の終末場面で振り返りカードを利用し、ねらいの達成状況を振り返らせる。	・4月に実施した調査の「授業では、授業の目標(めあて・ねらい)が示されている」の肯定割合が97.6%(市との比較+6.1ポイント)、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の肯定割合が71.8%(市との比較+13.7ポイント)である。
・思考力、判断力、表現力の育成を図るための授業改善	・全教科、領域での「話す・聞く」「書く」ことを通した言語活動の充実を図る。 ・探究型授業を取り入れた学び合い、グループ活動を実施する。	・12月に実施した学習内容定着度調査では「活用」の問題の正答率が大幅に向上した。5教科平均で、基礎問題の正答率75.2%(前年比+5.8ポイント、活用問題の正答率61.6%(前年比+9.6ポイント)であった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・昨年度から取り組んできた探究型授業への授業改善の成果が表れており、国の全国学力学習状況調査、県のとちぎっ子学習状況調査、市の学習内容定着度調査、いずれの調査においても活用問題の正答率の伸びが顕著であった。これを踏まえ、今後は思考力、判断力、表現力の伸長を図りつつ、基礎的な知識、技能の確実な習得を目指していきたい。

・県の生徒質問紙調査や市の学習と生活のアンケートの結果から「意欲的に学習に取り組む」ことに関する質問で、県や市の平均と比較して低い結果であった。生徒の学習意欲を引き出すことのできる授業を展開できるよう取り組んでいきたい。